

部会員各位

厚木商工会議所

工業部会 部会長 松尾 義宣

金融保険業部会 部会長 前迫 静美

建設開発業部会 部会長 中野 正義

(公 印 省 略)

3部会合同交流会の開催について（ご案内）

< 3 K (スリーケイ) 交流会 工業部会 (K) ・金融保険業部会 (K) ・建設開発業部会 (K) >

初冬の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日ごろ、部会事業運営に際し、格別のご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、今年度は建設開発業部会が幹事となり、相互の情報交換を図るため、『3部会合同交流会』(3 K スリーケイ 交流会) を下記のとおり開催いたします。

つきましては、ご多用中のこととは存じますが何卒、ご参加下さいますようご案内申し上げます。

記

日 時 平成23年1月27日(木) 受付 午後3時30分～

【1部】講演会(無料) 午後4時～午後5時(5階大会議室)

テーマ 「G空間社会について」裏面参照

講 師 国土交通省 国土計画局 参事官室 推進官 藤原 啓志 氏

講師の方については急きょ変更になる可能性もございますのであらかじめご了承下さい。

【2部】懇親会(会費1名2,000円) 午後5時～午後7時頃(1階レストラン)

会社(企業)PRパンフレットをお持ち下さい。(希望の方)

会 場 厚木商工会議所 5階大会議室

※なお、ご参加頂ける方のみ 1月14日(金)までにご連絡下さい。

事務担当 地域振興課 斉藤

TEL 221-2153 FAX 222-0607

F A X 0 4 6 - 2 2 2 - 0 6 0 7

企業名		参加者名	
		F A X 番号	
1月27日(木)3K交流会に 講演会【1部】 ・ 懇親会【2部】 に参加 します			

※ お申し込みに際しまして

当交流会にお申し込みいただきました方につきましては、「お申し込み受付票」をFAXにてお送りいたします。お申し込みをされたにもかかわらず、数日たっても「お申し込み受付票」が届かない場合はお手数ですが事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

FAX番号はくれぐれもおかけ間違いのないようご注意下さい。

○地理情報システムと衛星測位を利用して地理空間情報を高度に活用していくことが、現在及び将来の国民が安心して豊かな生活を営むことができる経済社会を実現する上で極めて重要になっている。

○誰もがいつでもどこでも必要な地理空間情報を使ったり、高度な分析に基づく的確な情報を入手し行動したりできるG空間(地理空間情報)高度活用社会の実現を目指す。

国土の利用、整備及び保全の推進等

●国土計画や環境計画などの国土の利用、整備及び保全に関する計画の策定、公共施設の維持・管理への利用

●地震・火山活動の監視、災害状況把握・復興支援等への活用

・被災情報や現場写真などをGISで集約し、リアルタイムに情報共有することで的確な応急・復旧対策を行うことができる



どこで?どんな被害?をリアルタイムに把握
対策本部等

●離島の保全・管理

・基準点の設置・管理、空中写真の撮影等の実施



国民生活の安全・安心と利便性の向上

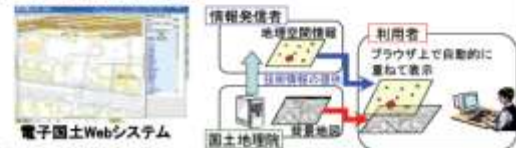
●緊急通報、防災、防犯への活用

・携帯電話等からの緊急通報における位置情報通知へのGPS活用
・防災情報プラットフォームの整備による防災情報共有のための共通基盤の構築

・子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤確立のための研究

●国民が知りたい情報を分かりやすく容易に入手可能に

・政府の実施するGIS施策に係る総合的なポータルサイトの充実
・容易に情報の公開や共有をすることができる、電子国土Webシステム等の機能拡充と普及



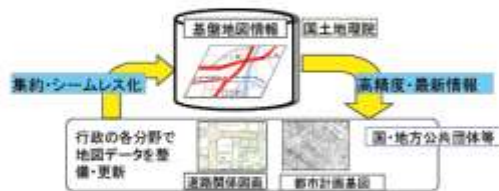
●高齢者や児童の見守り・移動支援



行政の効率化・高度化

●データの共有・一元的整備による費用削減

・位置の基準となる基盤地図情報の整備・更新・提供



●地籍整備、登記所備付地図及び公園の電子化

●労力軽減、高度な業務への注力が可能に

・各部局で共用地図を活用することにより、情報交換を迅速にし、効率化を図る



新たな産業・サービスの創出と発展

●屋内も含めた高度なナビゲーション・物流・マーケティング等の実現

・屋内も含めた3次元地理空間情報データベースの構築



●情報化施工の推進

・設計データに基づいて建設機械の排土板を自動制御するマシンコントロール等の普及



●水稲移植作業及び収穫作業の自動化による超省力作業システムの開発

・水稲を対象に耕耘から施肥・播種、移植、収穫までの作業を無人で行える農作業ロボットを開発し、超省力作業技術の開発を目指す



地図とGPSで得られる「いつ、どこ」情報に、様々な情報を組み合わせることで、より便利なサービスを受けることができる社会を「G空間社会(地理空間情報高度利用社会)」といいます。

例えば携帯端末。これをひとつ持っていれば、自分の今いる位置や周囲の様々な情報を知ることができ、災害時における避難場所への誘導など、私たちの生活をより安全、豊かにするだけでなく、新たな産業やサービスなどを生み出すインフラとして、注目されています。